

そこで話なりに次のような解決策を考えてみた。

1. 土浦、石岡は言うまでもなく、阿見、玉造、麻生、江戸崎等にも下水の終末処理場を早急に建設し、第三次処理まで行うようにする。
2. 工場排水、畜産汚水は量が多にかかわらず、その処理を発生者に義務づける。
3. 鯉養殖の網いけすは、当分の間増設を禁止し、既設のものも養殖密度を現在の半分程度に減らす。
4. 湖岸又はその近くにある各種の養魚池の排水にも、総量規制を含む厳重な水質基準を適用し、実施する。
5. 汚泥の堆積が特に著しい所は、何らかの方法でできるだけそれを除去する。

6. 霞ヶ浦総合開発計画を白紙に戻して、漁業をどの程度の規模で存続させるかという根本方針をきめ、それにそって新たに計画を立てなおす。その場合、霞ヶ浦の水を使う事によって工業を、現在より飛躍的に発展させるという構想は、当然断念しなければならぬであらう。また計画作成は、湖沼生態学の専門家による調査と答申に基づいて行うことが不可欠の条件である。以上の事項は、政治、経済との関連や実現の可能性をほとんど考慮しないで述べたものであり、完全なものでも、最善のものでもないかも知れない。これを実行する

ためには大きな政治力と強力な行政が必要なことは言うまでもない。また実行すれば、農、漁、工業関係者だけでなく、沿岸市町村のほとんどすべての住民が色々な利益（例えば各種施設のための負担増、畜産物、水産物の価格高騰、その他の物価高など）を忍ばなければならぬ。したがって実行は到底不可能であるという人が多いかも知れないが、実行することが出来なければ、霞ヶ浦をよみがえらせることも出来ないであらう。

（江戸崎西校教諭）

苦しかった昔の漁業

山 中 つ ね

私は明治二十七年生れで、家は出島の百姓家で、二十才の時にここに嫁に来たんだよ。だから嫁に来た時に、あ、私は魚の取り方なんぞ何も知らなかったよ。だけど、石田のこの辺は半農半漁だろう？ いやでもなんでも漁に出なければならぬ。だからおやじさんに（つねさんの夫のこと）おこられおこられ、だんだん魚を覚えていったんだよ。漁の方法は、えびだるを仕掛けるのと、つづくしっという方法でうなぎを取るのがあった。